

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

② 評価調査者研修了番号

SK18062
SK18063
S1511022

③ 施設名等

名称：	児童養護施設びっき
施設長氏名：	井上 隼
定員：	40名
所在地(都道府県)：	千葉県
所在地(市町村以下)：	袖ヶ浦市戸国飛地398番地1
T E L：	0438-40-5900
U R L：	https://hidamari.love/bikki
【施設の概要】	
開設年月日	2013/10/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 陽だまり
職員数 常勤職員：	30名
職員数 非常勤職員：	7名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	11名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	8名
有資格職員の名称（ウ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	25
施設設備の概要（イ）設備等：	親子訓練室
施設設備の概要（ウ）：	心理療法室
施設設備の概要（エ）：	食堂 静養室 調理室 地域交流スペース

④ 理念・基本方針

<p>「こども みらい しあわせ」 こどもを未来とするために、こどもの気持ちや考えを最優先し、尊重します。 私たちは、こどもの幸せの実現に向け、こどもと共に成長し合うおとなで在り続けることを約束します。</p>

⑤ 施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療的養育に関する支援の強化 「人材の育成」 ・ 福祉サービス推進委員会の推進 「子どもの意見表明権の再確認」 ・ 他機との連携 「養成校との連携強化」 ・ 地域との連携 「ショートステイ事業」「産前産後ヘルパー事業」

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2021/6/16
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2022/3/24
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成 30年度

⑦総評

<優れている点>

○子どもの権利を尊重し守ることに尽力している

・権利擁護委員会を設置しており、子どもの権利を脅かす課題について、ケース会議やワーキンググループ等を通じて改善を図っている。また法人の福祉サービス推進委員会においても、外部の第三者委員も参加して、養育・支援の質をチェックする体制を作っている。子ども会、意見箱などを通じ、子ども自身が意見表明する機会も作られていた。子ども一人ひとりが愛される存在であり、自己評価を高められるよう職員一同で関わっていることが確認できた。

○職員の資質の向上に向けて力を入れて取り組んでいる

・施設の重点課題として人材育成を掲げ、事業計画書に載せている。理念を実現するため職員の行動基準を定め、基本理念とともに会議前に読み合わせている。職員の力量の向上を支援するため、職員には個別の目標を設定してもらい、定期的な面談で取り組みを確認し、年度末には結果を評価して次年度の目標を話し合っている。また、内部研修は年間計画のもと実施し、外部研修は必要とする職員を派遣している。目標管理の仕組みや研修体制を整え、職員一人ひとりの資質の向上を支援している。

○安心・安全で暮らせる生活ができるように施設全体で取り組んでいる

・子どもの暴力や不適切な行動が発生した時には、タイムアウトやクールダウンさせて、子どもに寄り添い、傾聴し、状況の把握をするようにしている。また、子ども同士でトラブルが発生した時には、受容的な関りに努め、一緒に遊んだりして子ども同士の関係調整をおこなっている。子どもたちが安心・安全で暮らせるように、職員間で情報を共有し、施設全体で対応できるように取り組んでいる。

<改善が望まれる点>

○自立支援計画の評価・見直しの体制作りが求められる

・自立支援計画は年1回、更新時期に見直しをしている。短期目標を設定しているものの、達成状況进行评估したり、子どもと面談する機会が作られていない。コロナ禍において、個別面談の実施が難しい状況ではあるが、目標の評価や見直し、計画に沿った支援となっているかの確認が求められる。

○子どもへの心理的ケアを自立支援計画に組み込み、取り組むことが望まれる

・心理療法担当職員を配置し、専用の部屋及び設備を設けるなど、支援の環境を整えている。心理的なケアが必要な場合は、児童相談所と連携して助言を受けながら対応している。個別の心理支援は自立支援計画に位置づけることや、具体的なプログラムを策定して取り組むことが望まれる。また、心理的ケアに関する職員研修や、スーパービジョン体制を整えることも期待される。

○運営の透明性を確保するため、さらなる情報公開が望まれる

・施設のホームページには、運営方針や養育に望む心得等を載せたり、SNSで頻回に直近の情報を発信している。情報公開をさらに進めるため、ホームページには事業計画や財務諸表、苦情解決の体制等を載せることや、広報誌を定期的に発行し、家族や関係機関等に配布することも期待される。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

施設見学(場面観察)や訪問調査の中でも丁寧なヒアリングや児童への対応を受けて、公平な評価を行っていることを強く感じた。今回の評価結果に関して相違はなく、真摯に受け止めて、今後の施設運営のみならず、児童への対応に還元していきたい。

また、このような第三者機関から得た、俯瞰的な視点を従事者一人ひとりが持ちながら、日々のケアワークに臨む必要性も感じた。無論、意識の向上のみならず、それを実践していくのかを組織として今一度施設全体で共有していきたい。

⑨第三者評価結果(別紙)

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
施設の理念は「こども・みらい・しあわせ」であり、こどもの気持ちや考えを最優先し尊重するとしており、使命や目指す方向を読み取ることができる。年度当初に基本理念や行動指針が記載された事業計画書とともに、行動指針等が綴じられたファイルを職員に配布し、読み合わせをおこなっている。また、事業計画についても説明するなど、職員への周知が図られている。施設の目指している養育・支援については、半年ごと職員に再確認をしている。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
全国児童養護施設協議会や他施設との交流で福祉事業全体の動向の把握に努めている。県児童福祉施設協議会の施設長会議では、児童相談所の職員から一時保護の人数や県内の施設における空き情報等を聞いている。施設は入所児童数の推移を把握しており、空きがあれば子どもを受け入れている。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【コメント】		
現状を分析して施設の経営課題として、人材確保、人材育成を掲げている。取り組みとして、人材確保については多様な方法で求人活動を継続しておこない、人材育成においては従来よりも研修の機会を増やすなど、職員の資質の向上を支援している。経験の浅い職員が多く、中堅層を育てることを重点課題としている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
【コメント】 中長期的なビジョンは検討中であるが、国の通知である「児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進」に基づき取り組みを進めており、施設の小型化に向けて、今年度を実施予定の項目を明示している。なお、中長期的なビジョンを中長期計画としてまとめることが期待される。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
【コメント】 単年度の事業計画を策定し、施設小規模化等の重点項目や職場環境の整備、財務基盤の安定、衛生管理の徹底、調理技術の向上などを明記している。計画は実行可能な具体的な内容となっている。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】 事業計画は職員意見や外部の意見も踏まえ管理者が策定し、職員には職員会議で周知をしている。事業計画の実施状況については運営委員会等で話し合っている。また、設置している各委員会の活動も事業計画に盛り込み、取り組んでいる。なお、事業計画は年度途中においても実施状況の評価し、成果や課題などを明確にして推進することが望まれる。		

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画には食事委員会、性教育委員会、児童会促進委員会等の子どもの支援に関わる活動や、年間の行事計画を載せている。毎月の児童会では、行事の予定等を説明している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的を受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

自己評価を実施し、第三者評価を受審して、養育・支援の質向上に取り組んでいる。また、職員には人権擁護のためのチェックリストをもとに自己評価をしてもらい、権利擁護委員会が集計して、点数の低い評価項目を職員会議で周知し、取り組みを促している。なお、児童養護施設の評価基準に基づいた自己評価の定期的な実施も望まれる。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

自己評価の結果に基づき課題を文書化し周知をしている。それをもとに各々が支援のあり方を見直している。とくに、子どもへの対応についてバラつきを課題としており、子どもにはルール等をさらに伝えていきたいとしている。なお、定期的な自己評価や第三者評価等で見出した課題についても、組織的な取り組みを期待したい。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
業務分担表にて施設長の業務分担及び事務分掌を明確にしている。施設長は運営会議やケア育成会議、各種の委員会に出席し、施設の方向性を示したり業務の指示を出すなど、自らの役割と責任を果たし、施設運営に取り組んでいる。		
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
社会的養護関係施設の施設長会議や、全国児童養護施設協議会、県児童福祉施設協議会等の各種の研修に参加して関連法令等の理解を深めている。また、必要な内容は職員と共有し、順法精神を説いている。管理者はさらに研鑽を積みたいとしており、専門性の向上が期待される。		
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>
【コメント】		
施設長は養育・支援の質の現状について、職員とともに日々分析し、課題を見出し改善に向けて取り組んでいる。とくに、引継ぎ時には、子どもの情報を共有して気づきなどを伝えている。また、施設内に権利擁護委員会や生教育委員会などを設置し、職員の主体的な活動を支援している。内部研修については年間計画のもと実施し、外部研修は必要な職員に受講してもらっている。		

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長自ら現場に赴き支援の在り方を検証したり、子どもの動向の把握や職員体制を確認するなど、環境整備に努めている。また、情報の伝達を速やかにするため、「チャットツール」を用い、気になったことなどを職員間で共有している。職場環境の整備にも力を入れて取り組んでおり、勤務体制の見直しや職員間の協同・コミュニケーションを図ることを事業計画書に載せている。

2 福祉人材の確保・育成

(1)	福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

人材確保は施設の課題であり、採用活動として外部の合同就職説明会や学校へ求人カードを送付している。併せて、施設で実習をした学生や学校へアプローチするなど手を尽くしている。また、加算職員として、家庭支援専門相談員や里親支援専門相談員、職業指導員などを配置し、子どもの支援にあたっている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○

【コメント】

人事考課表に基づき職員には業務を自己評価してもらい、それをもとにフロアリーダーや施設長が面談して助言をしたり、抱えている問題などについて相談に乗っている。人事考課の結果は面談でフィードバックするとともに賞与に反映させ、やる気の向上につなげている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長は、職員の有給休暇の消化状況や残業時間を把握しており、働きやすい職場づくりのため、職員の要望に応じたシフトをつくり、心身に無理がないように配慮している。また、職員間の協力体制もあり、急なシフトの変更にも対応できている。健康管理のため職員に健康観察票を付けてもらって体調を確認したり、メンタルヘルスに問題があれば嘱託医に診てもらえる体制がある。福利厚生としては福利厚生センターに加入しており、職員はさまざまな特典が受けられる環境にある。施設は職員の就業状況に配慮しており、働きやすい職場となっていることがうかがえる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

行動指針を策定し、理念を実現するための職員の行動基準を定めている。人事考課の際には個別の目標を設定してもらい、定期的な面談で取り組みを確認し、年度末には次年度の目標を話し合っている。施設は目標管理の仕組みを導入しており、職員一人ひとりの育成に向けた取り組みをおこなっている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

人材育成は重点項目であり、計画的に研修を推進することを事業計画に載せ取り組んでいる。内部研修の年間計画を策定しており、虐待防止や救命救急、小児臨床動作等の研修を企画・実施している。コロナ禍で、外部研修は十分ではなかったが、受講対象者を任命して派遣している。なお、「期待される職員像」等を明示し、人材育成を図ることが望まれる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	

【コメント】

職員一人ひとりに研修の機会を確保しており、内部研修は年間計画のもと実施し、外部研修は案内文書を回覧したり、必要な職員を指名して受講してもらっている。新人職員への個別のOJTやスーパービジョン体制づくりは課題としている。今後の取り組みに期待したい。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の受け入れにあたり窓口と担当職員を配置し、感染対策をとりながら昨年・今年と受け入れ、学校及び生徒の期待に応えている。実習は学校のカリキュラムに基づいて実施し、連携を図っている。事業計画においても、養成校との連携強化を載せ、人材確保を意識して受け入れることを明記している。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	

【コメント】

施設のホームページには運営方針や養育に望む心得等を載せたり、SNSで頻回に直近の情報を発信している。情報公開をさらに進めるため、ホームページには事業計画や財務諸表等も載せることや、広報誌の発行なども期待したい。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

施設における事務・経理・取引等に関するルールは就業規則等で明確になっている。内部監査や外部監査も実施しており、透明性の高い適正な運営に努めている。なお、監査において指摘事項はないとのことである。

4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を上げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

地域との連携を事業計画書に記載しており、自治会・子供会と連携して地域の行事に参加するとしている。自治会に加入しており、清掃活動に参加したり、子どもが市のジュニアリーダーズクラブの活動に参加している。コロナ禍前は、地域の夏祭りに子どもと職員が参加したり、施設の「生誕祭」には地域の人にも声をかけていた。日常の買い物等は地域のスーパーやドラッグストア、コンビニ等を利用している。また、施設は学校の友人が遊びに来やすい環境となっている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアとの連携を進めることや、幼稚園・小学校・中学校との連携を事業計画書に明記している。コロナ禍であり、現状では受け入れを自粛しているが、これまでは更生保護女性会のボランティアを受け入れていた。コロナ収束後には、再度の受け入れを期待したい。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

地域の子供会があり、子どもたちもメンバーとなっている。小学校や特別支援学校とは定期的に、中学校とは随時に連絡会を開催して、子どもの情報を共有している。児童相談所とも毎月連絡会を開き、子どもの処遇の方向性について話し合っている。また、市の要保護児童対策協議会には法人理事長が参加するなど、関係機関との連携を図っている。なお、アフターケアについては、窓口を設け、専門職による取り組みを強化したいとしている。今後の取り組みが期待される。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

市の社会福祉施設等の連絡協議会に参加し、行政や他施設から情報を得るなど、地域の福祉ニーズの把握に努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

施設は災害時の避難所に指定されており、非常時には住民を受け入れる体制がある。また、行政と連携しながら、ショートステイ事業や産前産後ヘルパー事業を実施している。昨年末にはショートステイの受け入れ実績がある。今後もさらに施設の機能を地域の防災対策に活かすことを期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子ども個々の気持ちや考えを尊重することを盛り込んだ基本理念、行動指針が策定されている。指針は事業計画書の冒頭に明示され、子どもへの支援に反映されている。その他、厚生労働省が発行する児童養護施設運営ハンドブック、運営指針などの資料をもとに、研修の場などで立ち返る機会がある。法人の福祉サービス推進委員会が中心となり、職員セルフセルフチェックを実施しており、職員は個々に自身の支援内容について振り返りしている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社労福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員向けの服務規程があり、子どものプライバシーに配慮した対応方法について取決めがなされている。特に入浴・身だしなみの支援については、子どもの年代別に同性介助・異性介助が明確に定めている。また、子どもの居室や他のユニットを訪れる際には必ずノックし、あいさつすることがマナーとして共有されている。居室は個室と二人部屋とがあり、リビングなどの共用空間もある。一方で、より快適な生活環境については、今後検討していきたいと考えている。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設の透明化、オープンな体制を心がけており、複数のSNSを通じて施設の情報を発信している。入所を検討している子どもについては児童相談所と連携して面談し、施設のパンフレットを見せて説明をしている。併せて、必ず見学に来てもらい、どのような所か実際に見てもらおうようにしている。保護者への説明については、ケースバイケースであり、児童相談所がおこなうこともある。今後は、子どもの年齢に合わせた分かりやすい施設資料などを作成すると更によいと思われる。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

新規に入所してくる子どもには、複数回事前見学に来てもらい、その際にインテイクもおこなっている。インテイクには施設長・ファミリーソーシャルワーカー、ユニット長などが立会い、子どもの持つ思いや課題などを汲み取っている。また施設生活に対する不安や疑問などにも答えている。保護者に対しては、主として児童相談所が中心となって、施設について説明している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

18歳未満の子どもの家庭復帰は少ない現状であり、多くは18歳を迎えて就職し、退所していくとのことである。施設内には自立訓練のための部屋が用意されており、ここで一人暮らしを想定した練習ができるようになっていく。退所予定の子どもと馴染みの職員や職業指導員などで、定期的・随時に自立に必要な話し合いをしている。子ども個々の必要に応じて、就職先の企業、地域の相談窓口などに引継ぎもしている。施設でのアフターケア、退所支援のマニュアルなどが整備されると更に良いと思われる。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	

【コメント】

玄関と男子フロア、女子フロアの計3か所に意見箱を置き、書き方やフィードバックの仕方などが明示されている。また、月1回、小学生、中学生それぞれの子ども会が開催されている。職員も参加して、毎回、トピックスを提供して子どもたちで話し合う機会を作っている。最近のトピックスは携帯電話の使い方などであった。ルールは子どもたちで意見交換し、納得の上で取り決めるよう配慮している。この他、子ども一人ひとりの面談も予定していたが、新型コロナ感染防止のため実施できていない。引き続き、子どもの満足度の把握をしていくことが促される。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情受付の仕組みとして、施設内に3か所、意見箱が設置されている。意見箱へ入れる意見の書き方・記名の有無・回答者の指定など、子どもにもわかりやすい説明が掲示されていた。意見への回答は、子ども会での共有、施設職員からの回答、第三者委員からの回答など、様々なフィードバックを選択できる。法人の福祉サービス推進委員会との連携もあり、意見・苦情は半年に一度、集約・分析も行われている。保護者向けの案内はケースバイケースであり、可能な人にはおこなっている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

意見箱は玄関・男子フロア・女子フロアの3か所に設置し、自由に意見を書いて投書できるようにしている。意見箱の傍には、記入の仕方、記名・無記名の自由、回答してくれる職員や第三者委員などを記したものを掲示している。イラストも多用し、小さな子どもにも分かりやすい工夫をしている。個別の相談が必要な子どもには、プライバシーが守られるスペースで話を聞いている。保護者向けの相談案内は、児童相談所と連携して伝えている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

意見箱を設置し、子どもの意見・相談の汲み取りに努めている。相談や意見を受けた際の対応の手順は、子ども向けに明示し、併せて職員間でも共有している。匿名の投書の場合は、子ども会で全体に回答する。記名の場合は、個別に回答し、職員を指名している場合は、その職員から回答をしている。また、第三者委員に話すこともできる。意見・苦情は半年に一度集約して、必要に応じて施設全体の支援にも反映している。一方で、対応マニュアルの定期的な見直しはできていないとのことで、今後の取り組みが期待される。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	
【コメント】		
子どもの安心と安全を脅かすトラブル等については、職員間で共有し、話し合いの上で対策を考えている。特に他ユニット、他の居室への訪問については、より詳細にルールを作っていることが確認できた。危機管理委員会が中心となり、子どもが安全・安心に生活できる環境づくりに努めている。必要に応じて権利擁護委員会や生(性)教育委員会と連携することもある。事故防止・事故発生時の対応については、今後も職員間で対応の流れを共有し、定期的に見直しをすることも求められる。		
②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	
【コメント】		
危機管理委員会が中心となり、地域の保健センターのガイドラインに沿った感染症対策を実施している。インフルエンザ、感染性胃腸炎、水虫等については予防・発生への体制が整備されている。一方で、新型コロナウイルス感染症予防や発生時の対応については、まだ改善の余地があると考えている。もしも発生した場合、集団生活においてにゾーニングし、隔離の居室を確保するかが課題となっている。		
③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
【コメント】		
危機管理委員会が中心となり、防災、自然災害に関する備えをしている。地域に氾濫の恐れがある河川があるため、水害対策は特に力を入れている。備蓄品はすべて建物の3階に置き、水に浸からないよう配慮している。月1回、火災、地震、増水などを想定した避難訓練を実施している。過去に大型の台風で1週間、停電・断水をした経験もあり、この経験等を活かした防災マニュアルも作成している。今後は事業継続計画作成も検討すると更によいと思われる。		

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
【コメント】 施設の管理規定、服務上の注意事項などを作成しており、職員間で周知を図っている。厚生労働省が発行する児童養護施設運営ハンドブックに沿った支援に努めている。また、法人の福祉サービス推進委員会があり、法人職員と外部の第三者委員などが法人の各施設の体制について確認し、助言・支援をする仕組みがある。職員一人ひとりも、定期的に支援を振り返るチェックリストを記入している。職員が内外の研修に参加し、施設内でのフィードバックをおこなっている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="radio"/>
【コメント】 養育・支援の総合的な振り返りは、年度の事業報告書作成の際におこなっている。年度ごとの事業計画に定めた計画・目標に対して、どこまで実行できたか、次年度の養育・支援の課題などが整理されている。また、年度途中に発生した課題に対しては、随時に注意事項や新たな取り決め等が施設長名で周知されている。今後は厚生労働省の児童養護施設運営ハンドブックに加え、施設の状況に沿った運営マニュアルを作成し、定期的に職員や子どもと内容を話し合う機会が作れると、更に良いと思われる。		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="radio"/>
【コメント】 各ユニット付きの職員が3名おり、6人～8人の子どものアセスメント・計画作成をおこなっている。施設の心理士、ファミリーソーシャルワーカー等の意見も取り入れている。学校とは月1回、連絡を取り合っている。ケース会議では児童相談所や提携の医師などが加わることもあるが、コロナ禍を受け、外部の支援者・機関を招くことが難しい現状である。今後は標準的な手法を記したマニュアルの作成、困難ケースへのスーパービジョン体制などができると更に良いと思われる。		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	

【コメント】

自立支援計画は、1年ごとの更新日に合わせて見直している。児童相談所の担当職員は、主として夏休みなどの長期休みに施設を訪れ、子どもとの面談や施設職員との情報共有をしている。一方で、自立支援計画の短期目標に関するモニタリング、評価などはおこなわれていない。子ども個々の自立支援計画の進捗状況について、定期的・随時に職員間で話し合う体制が整備されているとは言い難い状況である。計画の定期的な評価・見直しの仕組み作りが求められる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

児童記録、日誌などの記録は適切におこなわれている。9時と13時の1日2回、職員ミーティングをおこなっており、必要な情報の共有がなされている。情報共有は施設全体に関わるもの、ホーム単位での子ども個別の情報などが整理されて、引継ぎされていることが確認できた。引き続き、日々の状況を記録し、職員間で共有していくことが促される。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報の保護方針や利用目的は法人で定め、職員に周知している。法人の就業規則、施設の管理規定などにも、情報の取扱いや守秘義務について明記されている。入所時などに、子ども本人や保護者に対しても個人情報の取扱いについて説明をしている。個人情報の保護や記録の管理に関する研修については、コロナ禍もあり、現在はあまり実施できていない。今後の再開が期待される。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの権利擁護に関しては、施設内に資料等があり、また研修等を通じて職員に周知を図っている。権利擁護委員会を設置して、子どもの権利に関する課題についてケース会議、ワーキンググループ等を開催し、改善に向けた話し合いをしている。権利擁護の体制や仕組みは整備されているが、昨年度から今年度にかけては、コロナ禍によりケース会議の開催や子どもへの聞き取り調査が予定通り実施できなかった。今後の再開が待たれるところである。

(2) 権利について理解を促す取組		
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

子ども会の開催や個別の面談などを通じ、自他の権利について考える機会づくりをしている。また日々の生活の中で、職員が随時に子どもの自己評価を高め、愛される存在であることを伝えるよう努めている。職員は、子どもの権利について研修等で学ぶ機会がある。一方で、子どもの権利ノートの配布はしているが、活用まではしていないとのことであった。子ども個々が、自身の権利について理解を深めるため、引き続きの対応が期待される。

(3) 生い立ちを振り返る取組		
①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	

【コメント】

生い立ちを伝える際は、児童相談所と施設とで話し合い、個別のタイミングで伝えている。伝える内容、伝え方、アフターフォローなどを個別具体的に取り決めた上で実行している。必要に応じて心理士が参加することもある。成長の記録の一つとして、身長・体重を表にしている。また行事等で撮影した写真を保管し、退所時に渡している。これ以外にも、施設で暮らした思い出となる記録類が充実すると更によいと思われる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があつた場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があつた場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

子どもに対する関りや対応について、不適切な関りにならないように職員会議や引継ぎなどで話し合っている。また、外部から大学講師を招いて月1回の勉強会をおこない、不適切な関りの防止について学んでいる。届出・通告制度については説明文を掲示するなど、子ども自ら訴えることができることを周知している。意見箱も設置し、いつでも意見を受け付けている。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	

【コメント】

生活ルールの確認や困っている事、要望などについては、小学生と中・高校生に分けて児童会(各月1回)を開催し、聞く機会を設けている。出された要望については全体会議で検討し、できることは対応したり改善に努めている。余暇の過ごし方は、公園での運動遊びや室内でのボードゲーム、カードゲームなど、一人ひとりの趣味や興味に合った活動ができるように支援している。今後は、年齢に応じて、子ども自ら小遣い帳でお金の管理をし、職員が確認をして助言するなど、金銭感覚が身につくような支援も期待される。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

職員は子どもの入所した経緯などを理解し、不安な子どもの気持ちを考えて温かく迎えられるようにしている。また、入所する子どもの箸・茶碗・衣類・布団などは子どもと職員と一緒に買い物へ行って揃えている。就寝前にゆっくり話したり寄り添うなど、生活場所が変わる事への不安を軽減出来るように配慮している。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	

【コメント】

退所後は、外部の関係支援機関と連携を取りながら金銭管理(家賃・光熱費・食費など)、職業支援などを行っている。退所した子どもの状況は適宜に連絡を取って、確認している。今後は、退所した子どもたちが、職員や入所している子どもたちと交流する機会を設けることに期待したい。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	

【コメント】

子どもの成育歴を理解し、心の中で何が起きているか、一人ひとりの思いに寄り添うような支援に心がけている。子どもが抱えている課題などについては、月1回のケア会議やホーム会議で話し合い、職員間で共有しながら子どもの理解に努めている。更に子ども一人ひとりについて理解を深められるように心理士からのアドバイスを得るなど、職員が子どもの心理的課題を把握することが望まれる。

②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

職員は、日頃から子どもの関係性をつくり、子どもの意思を尊重しながら寄り添えるように努めている。日常の決まがある生活の中で、可能な限り外出や部活動の希望等を尊重するように努めている。職員は、子どもの就寝時や夜間はリビングで見守り、子どもが安心して睡眠が取れるように支援している。

③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に把握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの成長に合わせて、子ども自身で行動ができるように促している。日常生活の中で、出来ないことなどは励ましの言葉かけをして、必要に応じてフォローしている。朝・夕に限らず、忙しい時には職員が各ホームと連携を取り、子どもの支援・援助ができるように取り組んでいる。

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

施設のホールは、学校の友達と室内で一緒に遊べる場として活用している。施設の庭は遊ぶスペースが限られているため、ボール遊びや遊具遊びをする時には近隣の公園に出かけている。中高生は徒歩や自転車で通学し、幼稚園児はスクールバスで通園している。なお、年齢・発達に応じた図書や玩具、遊具などの設置も期待したい。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていきようしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	

【コメント】

子どもが社会常識や生活技術が習得できるように、日ごろから身体の洗い方、箸と茶碗の持ち方、洗濯の干し方、買い物などの知識や体験を積めるようにしている。また、携帯電話を所持する際に使い方の説明はしている。インターネットやSNSを使用するにあたって、ルールを守り、正しい知識が身につくように支援することが期待される。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	○

【コメント】

栄養士・職員で定期的に食事委員会を開催し、子どもの意見も反映してメニューを決めている。現在は新型コロナウイルスの感染対策として、朝・夕飯は各ユニット、昼食は食堂で食事をするなどの対応をしている。また、子ども一人ひとりの意向で食事場所を柔軟に選べるようにしたり、ユニットで自炊期間を設けて調理技術を習得できるように支援している。なお、帰所時間が遅い子どもが温かい食事を食べることができるように配慮することが望まれる。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

季節ごとに、予算内で子どもの好みの服や個性に合った小物などを購入するようにしている。高齢児は小遣いを貯めて、予算外の商品やブランド物を買うこともある。また、年齢に応じて、子ども自身で洗濯をして清潔な物を毎日着られるように支援している。衣類の整理・整頓などは、職員と一緒にこないながら習得出来るように支援している。さらに、衣類の整理・整頓や管理保管などを習慣化させていくことを期待する。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	

【コメント】

各ホームでは、6～7名が個室または相部屋で暮らしており、子ども一人ひとりの居場所が確保されている。日常的に使用するお茶碗・お箸・コップなどは個人所有にしている。シャンプー・リンス・柔軟剤など共有のものもあるが、できるだけ個人で持てるようにしている。個々の部屋の清掃は、子どもの状況に応じて職員と一緒にこない、清潔な環境を維持できるようにしている。相部屋については、ゆっくりと安心してくつろげる個々の場所の確保のため、家具の配置や空間の工夫などが期待される。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

職員が日々の子どもの状態を把握して、健康管理をしている。平常の状態から変化が見受けられた場合は、医療機関と連携し、心身の状態に応じて定期的または継続的に対応している。薬についてはワーキンググループで管理し、職員間でチェックして子どもに与薬している。今後は、子どもの身体的健康だけでなく、心理面・情緒面での健康についても学習する機会を設け、知識を深めることが望まれる。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心を持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	

【コメント】

生教育委員会を中心に「生きる」権利などについての新聞を定期的を作成している。新聞は、子どもの目に入るようにトイレのドアに掲示して、自然に知識を習得できるようにしている。子どもたちが性的加害者や被害者関係にならないように、日頃から職員間で子どもの性について支援のあり方など検討することを期待する。また、年齢、発達の状況に応じて具体的なカリキュラムを作成したり、外部講師を招いての子どもや職員の研修・学習会なども期待される。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

子どもの暴力や不適切な行動が発生した時には、子どもに場所の移動を促しタイムアウトやクールダウンさせて、子どもに寄り添い話を聞くようにしている。子どもの暴力や不適切な行動は、ケース会議で要因・課題を分析し、職員間で共有している。行動上の問題に対しては児童相談所や各関係機関と協議をし、連携して対応している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの暴力やいじめが発生した場合は、職員が一人で抱えて対応しないように職員間で連携し、援助する協力体制を取っている。子ども同士でトラブルとなった場合は、子どもに対して受容的に関り、一緒に遊ぶなど子ども同士の関係調整をしている。また、職員間で情報を共有して施設全体で対応が出来るようにしている。子ども間のいじめや暴力などの対応で困難が生じた場合は、児童相談所や関係機関と連携しながら対応している。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

心理的支援を必要とする子どもには心理療法ができる環境を整えている。問題が発生した場合は、児童相談所と連携して助言を受けながら対応している。今後はさらに、子どもの心理支援プログラムの策定や心理的ケアに関する研修などを充実させることが期待される。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

小学生対象の学習ボランティアを週に3回来てもらい、子どもの学力、意欲向上に向けて学習支援をおこなっている。特別支援学校に通う子ども宿題を中心に学んでいる。中学生・高校生では、一人ひとり学力レベルに応じた学習塾や学習ボランティア・家庭教師など、適切な学習の機会を提供することが望まれる。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 就労者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

進路については子どもの意向を確認し、学校や児童相談所などの意見を踏まえて検討している。子どもの進路に必要な資料やセミナー参加を促すなど、判断材料を提供して自己決定できるように支援している。進学を希望する高校生には奨学金制度などの情報を提供している。なお、個々の状況に応じて必要な支援ができるように、児童相談所と連携して措置継続・延長などを利用できるように支援することも期待される。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	c
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校生には、社会経験を積めるようアルバイトをしたり、就職の選択幅を広くするために自動車免許を取得することを積極的に奨励している。今後は、企業の職場見学・職場体験や、長期の休みを利用したボランティア活動など、子どもが多様な社会体験を通じて自信を持ち、自立につなげるような支援が望まれる。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに関する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	<input type="radio"/>

【コメント】

家庭支援専門相談員を中心に家族の意向や子どもの意見を把握しながら、児童相談所と連携をして家族と信頼関係が築けるように努めている。また、面会、一時帰宅へと段階を踏んで関係作りに取り組んでいる。子どもに関する学校行事や施設行事などの予定や情報は、随時家族に知らせて参加を促している

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	□家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	
	□面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	□児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員が児童相談所や関係機関と連携を図り、親子関係の再構築に向けて支援をしている。状況によっては親子生活訓練室を使用してもらい、親子関係の構築を援助している。今後は、家庭支援専門相談員を中心に、親子関係の再構築支援として、家庭復帰計画を作成することも期待される。